

## ルクセンブルク経済・金融情勢（2020年10月とりまとめ）

2020年10月のルクセンブルク経済・金融情勢について、各種報道をとりまとめたところ、次のとおり。

### 1 統計関連

- 2020年10月のインフレ率は年率0.66%（前月0.68%）（11月9日付統計局プレスリリース）
- 2020年9月の失業率は6.3%（前月6.4%、前年同月5.3%）、2020年10月の失業率は6.3%（前年同月5.4%）（11月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 2020年上半期のルクセンブルクの平均インフレ率は+1%に上昇した。（前年同期は+2.03%）これは主に石油製品の価格暴落（-11.3%）とサービス価格のインフレ率（+1.4%）が相対的に低かったことを受けたものである。（10月9日付経済省プレスリリース）
- グラメーニャ財務大臣がルクセンブルク国民議会において2019年予算の総括について述べたところ、中央政府のレベルで2年連続の黒字を計上し、SEC2010原則によれば6000万ユーロの黒字により決算した。またパンデミック発生から6か月後の8月31日時点の2020年度予算の執行に関して、政府による多数の経済緩和策により、前年同時期と比較して17.7%支出が増加した。（10月12日付財務省プレスリリース）
- 2021年度政府予算案が国民議会へ提出されたところ、政府投資はGDP4.3%、過去最大となる27億ユーロに上っている。2021年1月から不動産税が導入され、投資ファンドによる不動産に係るキャピタルゲインは控除請求の余地なく20%の税率が課されることになる。2021年に導入される1トンあたり20ユーロの炭素税の具体的適用を開始し、2023年までに1トンあたり30ユーロまで徐々に引き上げる。経済のデジタル化の推進のため、2021年から2024年の期間に総額10億ユーロの支出が計画されている。2020年には中央政府の名目予算収支はGDP比-7.4%（-44億ユーロ）になると予想される。公的債務は中央政府の赤字とパンデミック関連の支援措置のための資金調達により、2019年のGDP比22%から2020年にはGDP比27.4%に悪化し、2021年末にはGDP比29.4%に達する可能性がある。（10月14日付財務省プレスリリース）
- ルクセンブルク統計局（Statec）は、次回の賃金スライド（インデックス制度）の適用が早くとも2022年6月となることを発表した。新型コロナウイルスによる危機はインフレを遅らせ、その結果、今回の賃金スライド（賃金、給与、年金の2.5%の増加を指す）は延期された。（10月27日付RTL）
- 2020年第一四半期、第二四半期において、他のヨーロッパ各国において雇用状況が悪化している中で、ルクセンブルクの雇用は0.6%増加した。（10月28日付統計局及び職業安定所プレスリリース）

### 2 政府等関連

- グラメーニャ財務大臣は10月5日、6日のEU経済財政閣僚理事会に参加し、「終わりの見えないパンデミックに直面する中で、競争力の向上とグリーン及びデジタルの二つの移行を達成するために、雇用支援と良質な投資の維持に焦点を当てる必要がある」と述べた。（10月6日財務省プレスリリース）
- ファイヨ経済大臣がルクセンブルクを代表してアルテミス合意に署名したことで、当国はア

ルテミス合意の創設メンバーとなった。NASAが主導する2024年までに初の女性飛行士及び新たな男性飛行士を月面に送るアルテミス計画において、その責任等を具体的に定める二国間協定を通じて実施される将来の協力活動の基礎となるものがアルテミス合意である。アルテミス合意の下での国際協力は宇宙探査を支援するだけでなく、国家間の平和的な関係を強化することも目的としている。（10月14日付経済省プレスリリース）

●ファイヨ協力・人道支援大臣が国民議会で開発協力・人道支援政策に関する演説をし、ODAを国民総所得の1%規模に維持する姿勢を改めて表明した。当国は新型コロナウイルス対策の一環として、アフリカ、中南米、アジアやその他地域の保健・社会経済プロジェクトのため、既に6580万ユーロを投入している。また同大臣は当国が国連中央緊急対応基金（CERF）に対して500万ユーロ、国連人道問題調整事務所（OCHA）の「新型コロナ対応に関する世界人道対応計画（GHRP）」に対して350万ユーロ、赤十字国際委員会に対して200万ユーロをそれぞれ拠出することによって、迅速なリアクションを取ることができたと述べた。また多国間協力として、当国のGAVIへの拠出額については今後5年間で500万ユーロに到達するように増額し、WHOについては715万ユーロを拠出した。（10月20日付協力・人道支援省プレスリリース）

●10月22日にバウシュ交通・公共事業大臣が高速トラム及び自動車・トラム以外の移動手段を利用できる多様式回廊に関するプロジェクトを発表した。このプロジェクトによって、ルクセンブルク市と南部地域の間新たに13の駅を設置し、ピーク時間帯には7分毎に高速トラムが通る予定であり、A4高速道路の渋滞緩和に加えて、南部地域における各コミュニティが地域のモビリティを全体的に再編成することも可能にする（10月22日付交通・公共事業省プレスリリース）

※当国政府機関の公表資料や各種報道などの公開情報をとりまとめたもの。